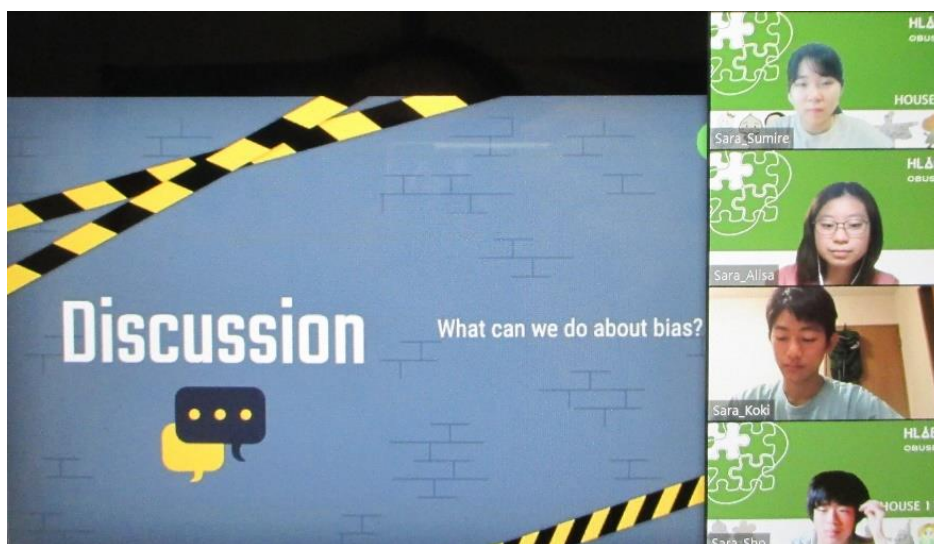


令和3年度

「地域における青少年の国際交流推進事業」

「信州グローバルセミナー2021」 成果報告書



長野県教育委員会

1. 事業の概要

(1) 概要

Pomona College や Brown University などの海外大学に在籍し、様々な国籍や背景を有する大学生・大学院生（以下、「海外大学生」と）と、長野県小布施町と協働し、全国から集まった 33 名の高校生（うち 10 名は長野県内在住）を対象とした 5 日間の「信州グローバルセミナー（以下、「小布施サマースクール」）」をオンラインで実施した。

期間中、高校生は海外大学生から専攻する学問領域やその生き方について英語で学ぶ少人数講義（セミナー）や様々な分野の第一線で活躍する社会人からの講演会（フォーラム）、自分自身の将来像を描くワークショップ、地域の文化体験など、グローバル・ローカル双方の視点や価値観を学ぶことができる多様な取組を体験した。

(2) 主なプログラム

- ・海外大学生によるセミナー（英語による授業）
- ・社会人講師によるフォーラム（講演会）
- ・フリーインタラクション（社会人講師との自由な対話の時間）
- ・リフレクション（1 日の活動を振り返るグループ対話）
- ・ワークショップ（大学生が企画する体験的学習）

2. 成果の概要

これらの取組を通して、参加高校生には意識の変容が見られ、その状況は、参与観察や事前・事後アンケートの実施により確認できた（アンケートの結果については後述）。目的に対する成果は次のとおりである。

- (1) 「自分自身のやりたいこと、あるべき姿を追求し、主体的な進路選択を行うことができる人材を育成する」という目的に対し、大学生や講師から、経験に基づく

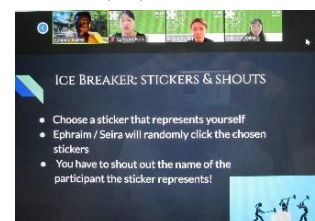
話を具体的に聞くことにより、自分自身のやりたいことを明確化し、主体的に進路選択する意識を高めることができた。

- (2) 「グローバルな視点を持ちながらも地域で活躍する人材や、日本の地域における価値観や課題を知り、愛着を持ちながらも、グローバルに活躍する人材を育成する」という目的に対し、それぞれの参加者が、自分の住む地域の価値観や課題を知り、理解する中で、自分の可能性を広げたり、日本人として世界に貢献したいという考えにつなげることができた。
- (3) 「グローバルな視点を持った上で、社会や身の回りにある課題に対する具体的な行動を起こす人材を育成する」という目的に対して、多様な価値観を感じ取り、自分の環境を相対化し、他者に対する想像力を持つ中で、それぞれが抱える課題を見だし、具体的な行動に向け決意を持つことができた。また、本事業は高校生を中心とした取組であるが、メンター役として参加した海外大学生及び日本人大学生にも、運営を通して人材育成に繋がる意識の向上が見られた。

3. プログラムの内容

- (1) 期間
8月13日（金）～ 8月17日（火）
- (2) 方法
オンライン
- (3) 参加高校生数：
33人（うち長野県内生10人）
- (4) 内容
- ① 1日目 8月13日（金）

参加高校生は全国からオンラインで集合し、大学生



に迎えられたのち、開会式に参加し、主催者である長野県教育委員会、共催者である小布施町長が挨拶を行った。運営委員長の大学生によるスピーチに耳を傾け、これからの5日間に思いを馳せた。

開会式後、プログラム中に行動を共にする「ハウス※」メンバーで、自己紹介をはじめ、協力してクイズに取り組むなどして初対面の者同士が打ち解けられるように「アイスブレイク」を行った。

昼食時には「おぶせラジオ」という企画を通じて、高校生は大学生に自由に質問した。大学生たちのフリートークに対して、スタンプやコメント、発言などで反応することで相互理解を深めた。

午後は「小布施ワークショップ」を行った。大学生運営委員が小布施町内を散策する様子を配信したり、大学生委員があらかじめ作成したオリジナルムービーを視聴したりして地域の理解を深めた。



夕方は「自己分析ワークショップ」を開いた。ここでは、ライフチャートの作成を通じてこれまでの人生について振り返るだけでなく、仲間のライフチャートについて対話することで、過去も含めた相互理解が可能となった。

夜はハウスごとにその日に感じたことを振り返りながら、自分の抱えている不安や今後の目標などについて話す時間（以下、「リフレクション」）を設けた。落ち着いた雰囲気の中、高校生は様々なことを話すことができ、その場で大学生からの意見をもらった。リフレクションはサマースクールの根幹をなすもので、期間中毎晩行われた。

※「ハウス」期間中、高校生と大学生からなる行動班。多くの時間を共にし、1日の学びや個々の過去を振り返る中で年齢や出身に関係なくお互いの考えや想いを共有する。少人数だから

こそ密な交流が生まれる場であり、プログラム後も続くあたたかい繋がりをつくる仕組みである。

② 2日目 8月14日（土）

午前は「セミナー」を実施した。

セミナーは理系・文系の枠にこだわらず、リベラルアーツの根幹となる取組である。オンラインではあったが、英語を用いたセミナーを通じて海外大学生講師との異文化交流を試みたり、英語での議論に積極的に参加したりする姿勢が見られた。

午後は高校生、大学生が仕事観から人生観まで双方向の対話を行う「フリーインタラクション」を実施した。この企画では、自由な交流を図る中で高校生は積極的に質問し、熱心に講演者の方々の話に聞き入っていた。社会の最前線で活躍する社会人との交流を通し、人生には多様な選択肢があることを知り、高校生が新たな視点や価値観を得る機会となった。また、令和3年度は小布施町にゆかりのある方を中心にゲストに迎え、地域の魅力的な社会人と高校生とが交流する機会にもなった。

〈フリーインタラクションゲスト〉

- 大宮 透 氏
(小布施町総務課長・総合政策推進室長)
- 酒井 朝羽 氏
(軽井沢風越学園)
- 佐々木 愛 氏
(小布施町地域おこし協力隊)
- 塩澤 耕平 氏
(ハウスホクサイオーナー)
- 志賀 アリカ 氏
(小布施町立図書館長)
- 寺田 菜々美 氏
(JR東日本)
- 遠山 宏樹 氏
(小布施町地域おこし協力隊)
- 林志洋 氏
(小布施町総合政策推進専門官)
- 平岡 駿 氏
(学校法人角川ドワンゴ学園)

〈フリーインタラクションに対する高校生の感想〉

- ・自分の将来に対する「一般的」な見解がすべてではないことを教えてくれた。

③ 3日目 8月15日（日）

午前は前日に続きセミナーを実施した。

午後は社会の最前線で活躍している方の話を聴き、自分の将来に生かすための「フォーラム」を行った。講師の小口氏は自身が経てきた様々な経験を通して、感じたこ

とや気づき、そして「百聞は一見に如かず！百見は一験に如かず！」という心強いメッセージを述べた。高校生たちは熱心に講演を聞き、受験や進学を越えて、自分がどう生きたいか、人生において何を大切にしたいかということを考える機会となった。



<小口良平 氏>

1980年長野県岡谷市生まれ。

2007年3月9日から約1年をかけて日本を一周し、2009年3月9日からは、世界一周の旅に出発する。

2016年10月9日に故郷の長野県岡谷市にて最終ゴールを迎えた。日本を含み約8年半をかけて、157カ国155、502キロを走破した。（日本1位、世界3位）

旅を経て感じたことは「人間は一人では何一つできない、ここまでこれたのは、支えてくれた人がいたから」。旅で得た教訓「夢の持つ力は発することから始まる」ことを多くの人に伝えたいと講演活動を開始。モットーは「世界はもっと自由に、幸せになれる。魔法の3つの言葉『こんにちは・ありがとう・うまい！』を合言葉にする。」

夜は参加者同士が気軽に語り合える「Coffee Chat」を開いた。任意参加ではあったが多くの高校生が参加し、普段の生活での悩みや進路の相談、大学生の専攻についてなど様々なことについて語り合った。

④ 4日目 8月16日（月）

午前は前日に続きセミナーを実施した。

午後は事前に参加者へ郵送した小布施の特産品の一つである味噌の手作りキットを用いて、オンラインで味噌作りを体験した。その味噌作りにあたっては、地元の穀平味噌醸造場の方に御指導をいただき、さらに小布施の歴史や産業等の内容も盛り込んでインタビューし、小布施町の国際交流等も含めた取組について理解を深め、町の魅力について考えたり、意見交換をしたりした。

⑤ 5日目 8月17日（火）

最終日の午前中は自己分析ワークショップを行った。サマースクール終了後の未来に向けて、自分はどんな夢を持っているか考え、またそれを叶えるためにどうすべきかを5日間を共にした仲間と語り合った。未来の自分の設定で自己紹介をする時間もあり、より具体的に将来の自分像を描くことのできる機会となった。

(5) 事後報告会の実施

- ① 日時
10月23日（土） 17:00～18:00
- ② 参加者
25名
- ③ 内容
 - ・小布施サマースクール2021実施概要の説明
 - ・参加高校生によるスピーチ
 - ・高校生と報告会参加者との意見交換

まず、スライドを見ながら5日間の取組を振り返った。

参加高校生によるスピーチでは、「人に頼ることができるようになり、心に余裕を持って生活できるようになった」、「日記に自分の感情を書き記し、自分と向き合うようになった」、「多様な価値観を受け入れることの大切さを知り、読書をするようになった」など、参加前と参加後の自己の変容について語った。

また、運営に当たった大学生からも、5日間を通して感じた高校生たちの変容や、高校生の振り返りを聞いた上での感想、あるいは大学生自身の意識の変容が述べられた。

4. 事業成果について

事業成果については、参加者へのサマースクール参加前後に実施したアンケートにより4段階評価で計測した。

以下は、アンケート結果に基づく成果に関する概要である。

(1) 語学力について

- ・「英語で自己紹介ができる」、「英語で外国人に話しかけることができる」の質問について、事前から「とても思う」「少し思う」が多く、事後に大きな変化は見られなかった。

- ・「将来外国の学校に行きたい」「将来外国の会社ではたらかしたい」の質問について、事前事後の比較で「まったく思わない」「あまり思わない」が減少し、「とても思う」「そう思う」が増加した。
- (2) コミュニケーション能力について
- ・「だれにでも話しかけることができる」「人の話をきちんと聞くことができる」「人のために何かをしてあげるのが好きだ」「人の心の痛みがわかる」のすべてにおいて、「とても思う」が増加した。
- (3) 主体性・積極性について
- ・「前向きに物事を考えられる」の質問について、事前事後の比較で「まったく思わない」がゼロになり、「あまり思わない」も減少した。
 - ・「先を見通して、自分で計画が立てられる」の質問について、「とても思う」「少し思う」が増加した。
- (4) チャレンジ精神について
- ・大きな変化はないが、「小さな失敗を恐れない」「うまくいくようにいろいろな工夫をすることができる」「新しいことに挑戦したい」のすべてで、「少し思う」「とても思う」が増加した。
- (5) 協調性・柔軟性について
- ・「だれとでも仲良くできる」「その場にふさわしい行動ができる」「自分勝手なわがままを言わない」のいずれにおいても、大きな変化は見られなかった。
 - ・協調性と自己表現との両立について思案する参加者もいた。
- (6) 責任感・使命感について
- ・全ての項目で、わずかに意識の高まりが見える。
 - ・特に「自分がすべき役割をはっきりわかっている」の質問では、「少し思う」「とても思う」で100%となり、意識の高さがうかがえた。
- (7) 異文化理解について
- ・「交流国の歴史を理解している」の質問について、「とても思う」が5名減少し、わずかに平均値も下がった。
 - ・海外大学生との交流を通じて、容易に理解できないことを感得したと考えられる。

- (8) 日本人としてのアイデンティティについて
- ・「日本の文化・歴史を説明できる」の質問について、「あまり思わない」の割合が増加した。海外大学生との交流を通じて、あらためて日本の文化を相手に説明できるようになることの重要性を認識した結果ではないかと考えられる。
- (9) 外向き志向について
- ・「日本人として世界に貢献したい」、「外国の人との交流を通して自分の可能性を広げたい」、「交流した外国の人と将来も繋がりを持ちたい」のいずれも積極的回答が微増した。プログラムを通じての交流が、外向き志向を育むことにつながっていると考えられる。
 - ・特に「交流した外国の人と将来も繋がりを持ちたい」の肯定的回答は100%であった。

7. 成果のまとめと今後の課題

(1) 成果

- ① 日を追うごとに、積極的に他の参加者やメンター役の大学生に話しかける姿や、フォーラムの際に躊躇せずに質問をする姿が見られた。また、セミナーの際に英語で質問したり意見を述べたり、英語でのコミュニケーションに対する意識の向上が見られた。その上で、大学生や講師から、具体的な経験に基づく進路選択の話聞くことにより、自分自身のやりたいことを明確化し、主体的な進路選択を行おうとする意識を高めることができた。また、海外の大学への進学意識・留学に対する意識も高まった。
- ② フォーラム講師の講演を聞くことや、期間中のリフレクションの時間で、海外大学生も含め、お互いの日々の生活や進路についての考えを話し合い、伝え合うことにより、それぞれの参加者の地域における価値観や課題を知ることができた。その上で、自分の可能性を広げ、海外における日本人として世界に貢献したいという考えに育成につながった。
- ③ 異なる人種・国籍・居住地・学校など、それぞれに異なる背景をもつ高校生、大学生及び社会人講師と関わりをもつ中で、多様な価値観を肌で感じ、

し、参加者同士の連携活動などを促す取り組みや、長野県教育委員会が主催する「マイプロジェクトアワード長野県 Summit」などの発表の機会へ積極的に参加しながら、全県の高校生に向けて広報活動を行う必要がある。

自分の環境を相対化したり、他者に対する想像力を持つ大切さを参加者が実感することができた。その上で、高校生が多様な他者との交流の中から、それぞれに抱える課題を見出すことができ、閉会式では高校生一人ひとりが「自分がこれから取り組むこと」をスピーチすることで、具体的な行動へ向け決意を持つことができた。

- ④ 本プログラムは高校生の学びをメインとしたものではあるが、参加した大学生についても、運営を通じて人間的に成長した姿が見られ、指導者としての自覚に基づくロールモデルとしての役割を果たそうとする意識の向上が見られた。
- ⑤ 2013年から同様の取組を継続してきた結果、小布施町や周辺地域への還元が進んできている。

(2) 課題及び改善に向けた方策

① 高校生に対する効果の検証

本プログラムにより「英語力の向上や国際交流への心理的障壁が下がる」という短期的な効果は見込まれた。一方で、教育プログラムとしては、今後の高校生の進路も継続的にモニタリングし、本プログラムの間接的なインパクトも定量的に把握する必要がある。参加者が集う場として小布施町を活用しながら、定期的に参加者が戻ってくる環境を整備することで、進路や留学に関する活動などの支援を継続したい。

② 参加大学生の属性の多様化

首都圏の大学に所属する大学生が大半を占め、長野県から参加した高校生にとっては属性や経験が似ている大学生を見つけにくい面があった。多様性を確保しながら、長野県出身や長野県内の大学に通っている大学生の人数を増やすことで、長野県の高校生にとって運営大学生が身近な存在であると感じさせる必要がある。

③ より幅広い県内高校への広報活動

参加生徒は各校において、体験したことを発表する機会は得ているが、参加をしたことによる自己の変容や、その後のアクションについて、その成果を伝える場面が事後報告会だけでは不十分である。また①の検証の場を活用

小布施サマースクール2021（「信州グローバルセミナー」事業）
参加者の意識に関するアンケート

以下の項目について、「とても思う」、「少し思う」、「あまり思わない」、「全く思わない」の4段階で、参加者への事前・事後のアンケートを行うこと。
また、事後アンケートについては、事業終了から一定期間経過した後も改めてアンケートをする等成果の把握に努めること。

要素Ⅰ ①語学力、要素Ⅰ②コミュニケーション能力

要素Ⅱ ①主体性・積極性、要素Ⅱ②チャレンジ精神、要素Ⅱ③協調性・柔軟性、要素Ⅱ④責任感・使命感

要素Ⅲ ①異文化理解、要素Ⅲ②日本人としてのアイデンティティ

要素	質問番号	質問項目	回答	事前	事後	変化
要素Ⅰ	1	英語で自己紹介ができる	とても思う	76%	76%	→
			少し思う	15%	15%	→
			あまり思わない	9%	9%	→
			まったく思わない	0%	0%	→
	2	外国の人に英語で話しかけることができる	とても思う	52%	58%	↑
			少し思う	39%	33%	↓
			あまり思わない	9%	9%	→
			まったく思わない	0%	0%	→
	3	将来外国の学校に行きたい	とても思う	48%	55%	↑
			少し思う	15%	18%	↑
			あまり思わない	24%	21%	↓
			まったく思わない	12%	6%	↓
	4	将来外国の会社ではたらかしたい	とても思う	30%	39%	↑
			少し思う	33%	33%	→
			あまり思わない	18%	12%	↓
			まったく思わない	18%	15%	↓
要素Ⅱ	5	だれにでも話しかけることができる	とても思う	39%	48%	↑
			少し思う	36%	33%	↓
			あまり思わない	18%	12%	↓
			まったく思わない	6%	6%	→
	6	人の話をきちんと聞くことができる	とても思う	79%	82%	↑
			少し思う	18%	15%	↓
			あまり思わない	3%	3%	→
			まったく思わない	0%	0%	→
	7	人のために何かをしてあげるのが好きだ	とても思う	70%	85%	↑
			少し思う	30%	12%	↓
			あまり思わない	0%	3%	↑
			まったく思わない	0%	0%	→
8	人の心の痛みがわかる	とても思う	52%	61%	↑	
		少し思う	45%	30%	↓	
		あまり思わない	3%	9%	↑	
		まったく思わない	0%	0%	→	
要素Ⅱ	9	自分からすすんで何でもやる	とても思う	48%	42%	↓
			少し思う	36%	48%	↑
			あまり思わない	15%	9%	↓
			まったく思わない	0%	0%	→
	10	前向きに、物事を考えられる	とても思う	39%	36%	↓
			少し思う	36%	52%	↑
			あまり思わない	18%	12%	↓
			まったく思わない	6%	0%	↓
	11	先を見通して、自分で計画が立てられる	とても思う	36%	42%	↑
			少し思う	36%	42%	↑
			あまり思わない	18%	15%	↓
			まったく思わない	9%	0%	↓
12	小さな失敗をおそれない	とても思う	33%	36%	↑	
		少し思う	33%	39%	↑	
		あまり思わない	27%	21%	↓	
		まったく思わない	6%	3%	↓	
13	うまくいくようにいろいろな工夫をすることができる	とても思う	55%	48%	↓	
		少し思う	30%	45%	↑	
		あまり思わない	15%	6%	↓	
		まったく思わない	0%	0%	→	
14	新しいことに挑戦したい	とても思う	91%	97%	↑	
		少し思う	6%	3%	↓	
		あまり思わない	3%	0%	↓	
		まったく思わない	0%	0%	→	

要素II	③協調性・柔軟性	15	だれとでも仲よくできる	とても思う	58%	61%	↑
				少し思う	33%	27%	↓
				あまり思わない	9%	12%	↑
				まったく思わない	0%	0%	→
		16	その場にふさわしい行動ができる	とても思う	64%	64%	→
				少し思う	36%	33%	↓
	17	自分勝手なわがままを言わない	とても思う	52%	55%	↑	
			少し思う	42%	33%	↓	
			あまり思わない	6%	12%	↑	
	④責任感・使命感	18	いやがらずに、よく働く	とても思う	52%	52%	→
				少し思う	36%	39%	↑
				あまり思わない	12%	9%	↓
19		自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる	とても思う	79%	82%	↑	
			少し思う	12%	12%	→	
			あまり思わない	9%	6%	↓	
20	自分がすべき役割をはっきりわかっている	とても思う	61%	64%	↑		
		少し思う	36%	36%	→		
		まったく思わない	0%	0%	→		
要素III	①異文化理解	21	交流国の文化(日常生活等)を理解している	とても思う	48%	58%	↑
				少し思う	39%	27%	↓
				あまり思わない	12%	12%	→
				まったく思わない	0%	3%	↑
		22	交流国の歴史を理解している	とても思う	39%	24%	↓
				少し思う	33%	42%	↑
	23	初めての環境に自分からなじもうと努力する	とても思う	67%	79%	↑	
			少し思う	30%	21%	↓	
			あまり思わない	3%	0%	↓	
	②日本人としてのアイデンティティ	24	日本の文化(日常生活等)を説明することができる	とても思う	45%	21%	↓
				少し思う	39%	45%	↑
				あまり思わない	15%	33%	↑
25		日本の歴史を説明することができる	とても思う	21%	18%	↓	
			少し思う	42%	33%	↓	
			あまり思わない	30%	48%	↑	
26	日本人としての良さを説明できる	とても思う	48%	52%	↑		
		少し思う	33%	30%	↓		
		あまり思わない	15%	15%	→		
外向き志向	27	日本人として世界に貢献したい	とても思う	70%	76%	↑	
			少し思う	21%	18%	↓	
			あまり思わない	9%	6%	↓	
	28	外国の人との交流を通して自分の可能性を広げたい	とても思う	85%	88%	↑	
			少し思う	9%	12%	↑	
			あまり思わない	6%	0%	↓	
	29	交流した外国の人と将来も繋がりを持ちたい	とても思う	85%	88%	↑	
			少し思う	9%	12%	↑	
			あまり思わない	6%	0%	↓	
まったく思わない	0%	0%	→				